

# [千葉県] 鴨川市立長狭小学校・長狭中学校 (併設型)

## 1. 学校(区)概要

- 教育目標：地域の次代を担う活力ある「長狭っ子」の育成
- 所在地：千葉県鴨川市宮山176
- 施設形態：施設一体型 前期棟1～4年 中後期棟5～9年
- 児童生徒数 (R3.5.1時点)



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	17	9	21	28	14	30	7	119	29	24	23	8	76	195
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	2	5	13

## 2. 導入経緯

### 【検討開始のきっかけ】

本市における次の諸課題の解消をめざし、児童生徒に「生きる力」を育むため、9年間の一貫したカリキュラムのもと、同じ敷地内で計画的・継続的な教育活動を行う統合型の小中一貫教育の検討を開始した。

○現行教育システム（「6・3制」）への課題

・いわゆる「中一ギャップ」の問題 ・「学習意欲と学力」の問題 ・自尊感情や人間関係づくりへの問題

○小規模校（1学級10人前後の集団）のもつ課題

・「学び」の側面から ・「心の成長」の側面から ・「地域の中の学校」の側面から

### 【具体的な経緯】

・平成17年度 鴨川市小中学校教育課程のモデル案作成

・平成18年度 「鴨川市教育ビジョン」5か年計画 第1次鴨川市教育政策研究会『鴨川市小中一貫教育課程モデル案』作成

・平成19年度 小中一貫教育構想の立案と推進 第2次鴨川市教育政策研究会『鴨川市小中一貫教育課程モデル案』実証のための検証授業の実践

・平成20年度 小中一貫教育の推進 「H19政策研プラン」の弾力的実施 第3次鴨川市教育政策研究会

・平成21年度 鴨川市新プランの弾力的実施 全小学校での英語活動実施 『新・鴨川市教育ビジョンの構想立案』小中一貫校「長狭学園」開校

・平成22年度 『新・鴨川市教育ビジョン』の策定

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 生き方を考える力 ・基礎学力と自ら学び考える力 ・豊かな心と人間関係を作る力

### 教職員体制

- 校長：1名（兼務発令） ● 教職員：全教職員に兼務発令
- 小中一貫教育コーディネーター：校務分掌で指名

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 区切り：4－3－2（前期 第1～第4学年 中期 第5～第7学年 後期 第8～第9学年）
- 学校行事等：2分の1成人式（第4学年） 立志式（第7学年） 前期・中期遠足

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：第1学年から音楽、第3学年から理科・家庭科において実施
- 教員相互乗り入れ：中学校教員が小学校の国語・算数・社会・理科・体育・外国語に乗り入れ  
小学校教員が中学校の音楽・体育に乗り入れ  
小学校教員が中学校の部活動に一部乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 入学式・卒業式・始業式・終業式・修了式（小・中学校合同で実施） ● 運動会（小・中学校合同で実施）
- 文化祭（小・中学校合同で実施） ● 避難訓練（小・中学校合同で実施）
- 全校縦割り掃除（第1～第9学年が年間を通じて一緒に掃除）
- 児童生徒会活動（いちご摘み等の行事・本部役員による毎月の挨拶運動）
- 部活動（第5学年から参加可能） ● 委員会活動（第5学年から参加） ● 福祉教育（第5～第7学年で実施）

### 市町村教育委員会等による支援

- 鴨川市教育政策研究委員会…市教委の諮問を受け答申書『鴨川市小中一貫教育課程モデル案』を作成
- 鴨川市小中一貫コーディネーター委員会…小中一貫教育推進のための研究・研修の内容面について協議・立案

### その他

- 学校運営評議員会・PTA活動は小・中学校合同

# テーマ：学習環境への継続的な配慮を通じた「特別支援教育」の充実

「すべての子どもの学びを保障する、校種・学年を超えた全員参加の学校経営」の基本方針のもと、長狭小学校・長狭中学校の全職員が「長狭学園」として、1つの職員室で職員会議・校内研修を行うとともに、授業の相互乗り入れを実施し、特別支援教育も含め1つの学校体制で児童生徒の指導にあたっている。9年間一貫して見通しをもって特別支援教育を推進することで、将来社会人として自立するための基礎となる読み・書き・計算などの学力や衣食住等に関して生活の中に活かせる能力を「生きる力」として育むことができる。


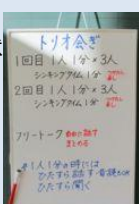

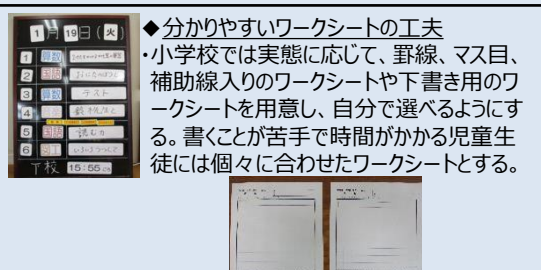
## 【特別支援学級の状況】

- ・小：2学級（知1、自・情1）  
学級担任2名、支援員1名
- ・中：2学級（知1、自・情1）  
学級担任2名、支援員2名

## ● 自學と自立を目指して




## 9年間を見通し、学習環境や授業スタイルを共通させることで、児童生徒が安心して学ぶ！

### 1 ユニバーサルデザインの視点を生かした取組 「鴨川市版授業スタンダード」の活用

	学習に取り組みやすい環境整備	分かりやすい情報掲示
全校	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教室前面・黒板の掲示物の精選</li> <li>・教室前面や黒板の掲示物等を精選して、学習に集中しやすい教室環境に整える。授業で、いろいろなところへの目移りをふせぐことができるようにする。</li> <li>◆机に出すものや置場の明確化</li> <li>・低学年のうちから机に出すべき筆記用具と置くスペースも示す。作業効率があがり、ものがなくなったり落としてしまったりすることがないようにする。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学習の流れを提示(単元や時間)</li> <li>・今どこを学習しているのかが分からなくなる状態を減らすために「今何をするのか」、「次に何をするのか」、「本時のゴールは何か」など、一目で分かる活動の流れを提示する。</li> <li>・中学校では、教科によって単元の見通しがもてるよう、時間ごとのゴールを示し、安心して取り組むことができるように工夫する。</li> </ul> 
特別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小・中学校全学級共通の日課表作成</li> <li>・一日の予定表を各教室の背面に掲示し、教科名に加えて学習の内容や必要なもの等も示し、一日の見通しをもって行動することができるようにする。急な予定変更に対応することが苦手な児童にも分かりやすく変更点を書き込み視覚に訴えるようにする。中学校は次週の学習の予定を知らせ、見通しをもたせるように配慮する。</li> <li>◆ICT機器の活用</li> <li>・小学校段階からキーボード入力に慣れさせる。メモをとることは苦手だがPCの操作が得意な生徒は、PCを使用することで思考が整理され、意欲的に学習を進めることができる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆分かりやすいワークシートの工夫</li> <li>・小学校では実態に応じて、罫線、マス目、補助線入りのワークシートや下書き用のワークシートを用意し、自分で選べるようにする。書くことが苦手で時間がかかる児童生徒には個々に合わせたワークシートとする。</li> </ul> 

### 2 特別支援学級の小・中学校合同の授業


学期ごとに小・中学校合同授業を行い、親睦を深めるとともに自己存在感と自己肯定感を育む。

1 学期	2 学期	3 学期
<p>市内の民間施設を利用して地元の自然を生かした産業のよさを学び、各部の親睦を深める。また、海の生き物のパフォーマンスや実際のふれあい体験などを通して、命のぬくもりや環境の大切さを学ぶ。</p> 	<p>自立活動で自らが学園で手塩にかけて育てた野菜の収穫と調理実習を行う。盛り付け、配膳、試食とその食事のマナー、後片付けに至るまで、一連の内容の習得と食育について学ぶ。</p> 	<p>市内の交流会で、学区の伝統行事である和太鼓や笛を駆使した祭り囃子を披露。隣接する吉保八幡神社の流鏝馬（千葉県無形文化財指定の神事）に携わる方が地域学校支援ボランティアとなり外部講師として教える。（チーム長狭の取組）</p> 

### 3 特別支援学級も含めた特色ある活動 小・中学校の区分や学級の区分を超えた指導がよりよい支援へ


- 多様な学習形態と多彩な支援
 

児童生徒の実態を踏まえたT T授業や少人数指導、また小・中学校の枠を超えた指導を可能な限り組入れ、きめ細やかな指導体制から学力向上を図る。音楽、美術、保健体育、技術・家庭科においてもT T 教員を配置することにより、インクルーシブ教育を充実させる。さらに、特別支援教育支援員の配置により、個々の困難さの解消に努め、自己肯定感の向上を図る。


- すべての小学校外国語活動・英語に中学校英語科教員を配置（ALTを含む3人指導体制）
 

小学校1年生から英語に慣れ親しませることで、中学校英語科への「なめらかな接続」を図る。また、きめ細やかな指導体制のため、特別支援学級児童にとってもメリット等が多い。さらに、児童のつまずきや困難さを中学校教員も把握しているため、中一ギャップ解消に向けたよりわかる授業の工夫や準備をすることができる。その結果、児童生徒の自己存在感を高めることができている。
- 合同生徒指導委員会
 

毎週、小・中学校の特別支援コーディネーターが加わり、合同生徒指導会議を日課表の中に1コマ組み込んで開催している。全校児童生徒の様子を把握し共通理解するとともに、問題解決に向けて小・中学校合同のチームで取り組み、担任だけの力に依ることなく複数の職員で児童生徒の支援ができ、問題の抑制・早期発見・早期解決につながっている。



### これまでの成果と課題、今後の取組

成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小・中学校教員が一体となったきめ細かい指導により、小学校から中学校への進学に際して、戸惑いや混乱はなく、安心して過ごしやすい学習環境を整えることができている。</li> <li>○生徒指導委員会・研究推進委員会・各学年担当等で連携をとりながら、小・中学校の共通理解に基づく指導により、基本の授業スタイルは共通している部分が多くなり、児童生徒の学力向上につながっている。</li> <li>○市内の研修や会議等でも情報共有をすることで、一つの事例をよりよいものにすることができている。</li> <li>○小・中学校合同で行う校内研修の中で、学習規律・授業の進め方・相談タイムの方法等の研究をした。</li> </ul>
今後の取組	<p>&lt;発達段階に応じた9年間の学びを見通した学習指導のより一層の推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「自己存在感」「自己肯定感」を育むための方策として、児童生徒が自ら考え、作り上げる経験ができる場を多く設定していきたい。児童生徒を前面に出した「まかせて、ほめて、うけとめる」活動を重視することで、自己指導能力も育てていきたい。</li> </ul>